

シミュレータを活用した看護師特定行為研修

一般社団法人 日本慢性期医療協会副会長 矢野 諭先生に伺いました

日本慢性期医療協会

一般社団法人 日本慢性期医療協会は、慢性期医療に携わる全国の医療機関が会員となり、医療・介護サービスの充実に努め、高度急性期医療、介護施設等との連携をはかりながら、慢性期医療の質の向上を図り、地域医療の充実に寄与することを目的に様々な活動を展開されています。

看護師特定行為研修については、『当該看護師は、在宅を含めた慢性期医療の現場においてこそ必要である』という理念のもと制度が施行された 2015 年から開講され、すでに多くの修了者が臨床の現場で活躍されています。

一般社団法人 日本慢性期医療協会 〒162-0067 東京都新宿区富久町 11-5 シャトレ市ヶ谷 2階 TEL.03-3355-3120 FAX.03-3355-3122

日本慢性期医療協会として特定行為研修にかける思い

日本慢性期医療協会では、以前から慢性期医療の中で、医師と同様に総合診療の視点に立って、幅広く多様な臨床場面に対応できる看護師を育成していきたいという思いがありました。そこで、看護師特定行為研修制度開始の 2015 年 10 月から、ただちに同研修を開講し、現在までの研修修了者 172 名を数えています。

協会が実施する研修の特徴は、慢性期医療の現場で実践頻度が高いと考えられる特定行為 9 区分 16 行為を全て「必修」としていることです。

多彩な病態の患者が増加している臨床の現場で、日常遭遇する可能性が高い多くの特定行為を体得し、実践可能にすることが目標です。少数の区分を選択性にせず、あえて 9 区分 16 行為を「必修化」したことは、色々な意味で臓器別専門医と総合診療医の関係を意識したものであります。

本協会の研修では、シミュレーターを用いて、気管カニューレ交換や陰圧閉鎖療法、PICC 挿入などについての実践的技術を修得してもらうことはもちろんですが、特に共通科目の知識を基盤とした理論的側面の研鑽を重視しています。特定行為の中の感染に対する薬剤投与や、高カロリー輸液の調整、脱水症状に対する輸液、インスリン量の調整などでは個々の症例により難易度が大きく異なるため、実践に

あたっては確固たる理論的根拠が求められるからです。

集合研修の中では、多様な臨床場面の演習・実習症例を提供して、多彩な病態を持った症例に対して幅広く対応できる、医学的知識と根拠に基づく総合的な判断能力を持った特定行為研修修了者の育成をめざしています。



特定行為研修でシミュレータを活用するにあたっての特徴・工夫

個々に時間をかけた手技の反復練習が必要な PICC シミュレータなどの数は、各演習グループ分用意しています。また、特に現場で使用頻度の高いさまざまな呼吸音の聴診のためのシミュレータである「ラング」は、集合研修の際の、フィジカルアセスメント演習・実習の場において活躍しています。フィジカルアセスメントにおけるバイタルサイン、身体所見の評価は緊急性の判断に最も重要であり、また臨床推論の基本になるものです。

多くのペーパーシミュレーション症例を用いた演習・実習に際しては、バイタルサインを再現するシミュレータを活用して、臨場感のある実習を実現することが可能になり、研修生の理解も深まっていると考えています。

認知症患者やけいれん患者への対応などの精神・神経領域を想定した、精神及び神経症状に係る薬剤投与と関連の実習においても、シミュレーターの使用による臨場感のある疑似体験は、判断能力の涵養に大きく寄与していると思います。



日本慢性期医療協会（特定行為研修指定研修機関として）の今後の研修の展望

当協会では、特に研修全般における「質の担保」を重視しており、研修終了後のサポートにも力を入れています。

どんなに優秀な研修終了者でも研修終了後に特定行為を実践しなければ、習得した内容を忘れてしまう可能性があります。特定行為研修の質の担保のためには研修修了者へのフォローアップが重要と考え、昨年から新たに、研修修了者を対象とした「フォローアップ研修」として、生涯にわたる継続したレベルアップ・スキルアップへの取り組みを開始しました。また、熱意のある優れた指導者（医師）の育成もきわめて重要です。

研修終了後も一定期間は指導者によるサポートが必須となり、必然的に指導者である医師にも質の担保が求められています。研修施設の指導者には、特定行為研修指導者講

習会への受講を義務づけており、ここでは指導者としての心構えや技術を系統的に学びます。

質の向上のために、医師にも受講者、修了者と共に学ぶ「協調的学習」の姿勢を求めています。在宅を含めた慢性期医療の現場ではすでに、当協会でも研修した研ぎ澄まされた臨臨床的判断能力を持った多くの特定行為研修修了者が活躍していますが、日本の医療全体にとってのその存在意義がもっと強調されなければなりません。まだまだ制度そのものの認知度は高くありません。

協会は今後も積極的な特定行為研修の推進と多くの有能な研修修了者の養成に力を注ぎます。それは、総合診療医の育成とともに、慢性期医療に従事する当協会の責務であると考えています。

今後の京都科学に期待すること

フィジカルアセスメント能力を向上させるための新しいシミュレータの開発を望みます。

胸部の診察についてはすでに優れたシミュレーターが存在していますが、腹部の診察、身体所見把握に適したシミュレーターにはまだ出会ったことがありません。

腹部の場合の身体診察所見（軟らかい、硬い、筋性防御、腹水など）から得られる情報は、緊急度判定、臨床推論において特に有力であり、時に血液・尿検査より重視されます。また、乳腺やリンパ節の触診に役立つシミュレーターもあれば魅力的です。

ぜひ、貴社の先端技術を駆使したユニークなシミュレーターが登場することを大いに期待しています。

編集後記

矢野先生、ご多忙の中インタビューに時間を割いていただきましてありがとうございました。今後、特定行為研修修了者が慢性期医療の現場で活躍する仕組みづくりが進んでくることと思っております。

多様な病態への対応を目標にした必須研修と終了後のフォローアップ研修、さらには指導者育成まで取り組まれる協会の熱意がいくらかでも伝わればと願っております。

引き続き、シミュレータ・教材開発で皆様の研修をサポートさせて頂ければ幸いです。

